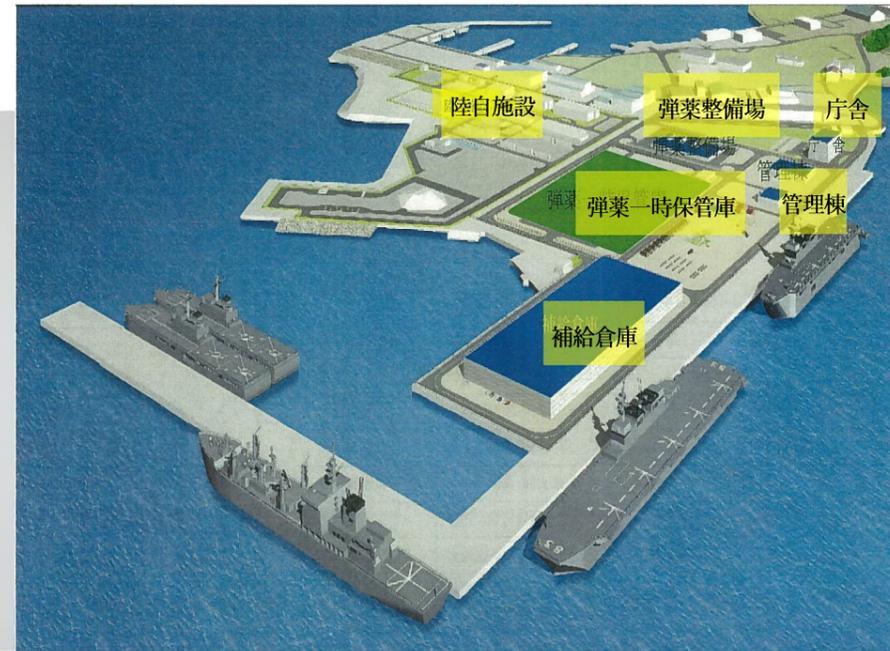


4. 防衛施設の崎辺東地区整備計画について

海上自衛隊では南西海域における情勢に鑑み、佐世保地区を南西方面における後方支援基盤と位置づけ、崎辺東地区を効果的に活用することとしています。今後、大型護衛艦や輸送艦等を係留することが可能な大規模な護岸整備が行われます。護岸整備に併せ陸上部の施設整備も計画されています。



5. 前畑崎辺道路整備事業

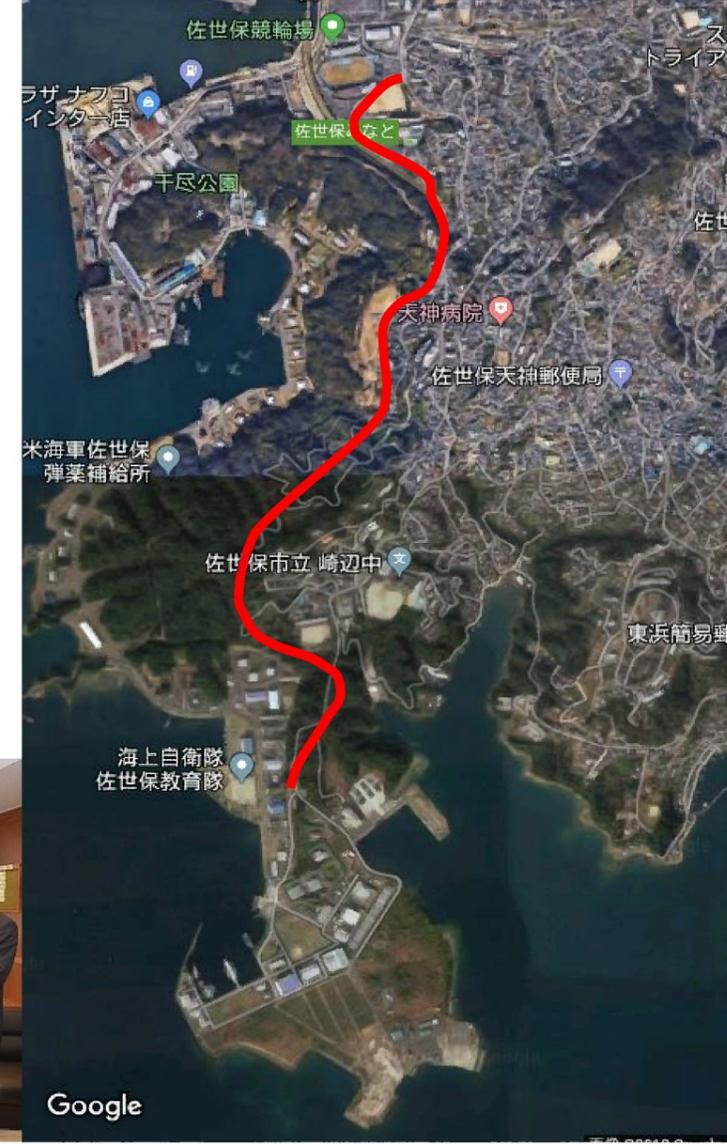
佐世保市は防衛補助事業として「前畑崎辺道路」の早期着工に取り組んでいます。海上自衛隊の施設がある崎辺地区と市街地を結ぶ市道の道幅が狭いため、大型車同士のすれ違いが困難で、朝夕に渋滞が生じている上、今後、崎辺地区で予定される陸上自衛隊の水陸両用車部隊の配備や岸壁整備によって、大型車両の通行が増え住民生活に重大な影響を及ぼすことの無い様、平成35年度を目標に、新たな幹線となる同道路の早期完成を目指します。



【全国市議会議長会基地協議会】



【防衛省要望】

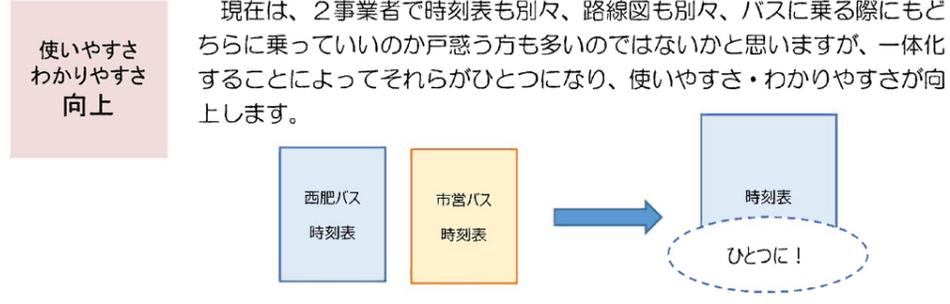


6. バス路線の維持について

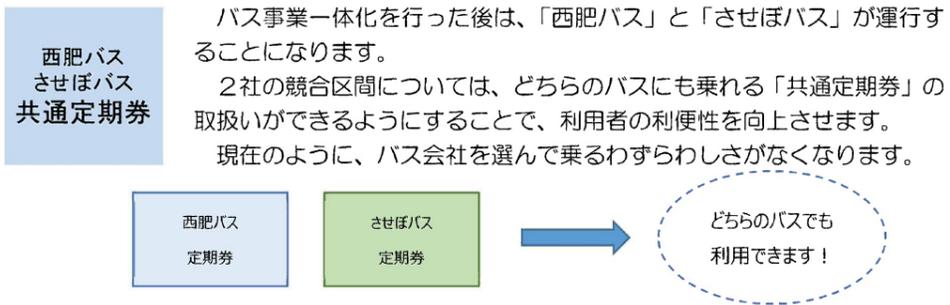
平成30年度末予定で、佐世保市交通局は廃止され、西肥自動車(株)がダイヤ編成を集中して行いながら、一部、させばバスに運行委託を行う事となります。今後もバス路線を維持していくためには必要な政策です。バス事業に限れば、交通局は赤字、西肥自動車も補助金を除くと同じく赤字である。運転士の不足や車両更新等の設備投資への負担も抱えています。本市のバス利用を他都市と比較してみると、通勤通学に占める交通手段としては九州内の市の中で3番目に高い利用率を示しており、本市にとって、バスは重要な公共交通の要となっています。このままでは、特に赤字路線の廃止や大幅な減便が危惧されることから、競合区間について、利用者の利便性を損なうことなく、効率的な運行（需要と供給にあった本数の整理が必要ですが、なるべく等間隔で運行されることや共通定期券の実現等）を行うことが必要であると考えます。すなわち、限られた経営資源（運転士・車両等）を最大限に有効活用し、経営改善を図ることで、バス路線の維持を可能とします。

【利便性の向上について】

①使いやすさ・わかりやすさが向上します



②共通定期券の設定を行います



③ノンステップバスの導入を推進します



④全国共通ICカードの導入をすすめます

現行の地域カードである「長崎スマートカード」から、全国共通ICカードの「ニモカ」に更新することで、地域内外の利用者の利便性が向上します。長崎県下の交通事業者と足並みをそろえて検討をすすめるため、導入時期はまだ明確になっていませんが、平成31年度または32年度中の利用開始を目指しています。



【国への働きかけ】

地元選出の国会議員の皆様へ朝長市長と共に各課題へのご協力をお願いしています。



【金子参議院予算委員長への要望活動】



【北村代議士への要望活動】



【谷川代議士への要望活動】